

目 次

はしがき

序 章 私たちの中国理解に欠けているものは何か?…… 1

導入——2012年の出来事	1
近代ナショナリズムの特色	3
ナショナリズムを区分けする	5
本書の特色	12

第Ⅰ部 歴史にみる中国ナショナリズム

第1章 清末から五・四運動まで …… 19

清朝の対外政策と統治	19
アヘン戦争と太平天国の乱	22
改革運動の挫折	25
漢民族ナショナリズムの興隆と衰退	28
中華民国の誕生の困難と五・四運動	32
中国の近代化の特色	37

第2章 内戦と日中戦争、中華人民共和国成立まで …… 39

ポスト五・四期、または国民革命	39
毛沢東の根拠地運動	44
日中戦争の持つ意味	48
人民共和国の成立と朝鮮戦争	53
ポスト朝鮮戦争の政治とその転換	56

第3章 冷戦の変容、日中国交回復から 「中国の台頭」まで	60
ソ連からの「自立」と核実験	60
プロレタリア文化大革命	63
中国と第三世界論	66
日中国交回復と改革開放、および天安門事件	70
南巡講話から「台頭する中国」へ	73
尖閣（釣魚列島）問題からみえるもの	75
尖閣諸島の「棚上げ論」について	78

補章 台湾問題にみる中国ナショナリズム	81
近年の出来事から	81
日清戦争＝台湾割譲	83
戦後のいくつかのポイント	85
中国ナショナリズムからみた台湾	88
東アジアの内部矛盾	92

第2部 社会基盤にみる中国ナショナリズム

第4章 ナショナリズムと「革命」	97
なぜ「革命」がキーワードに？	97
日本近代史の視座から	98
世界史の視座から	102
中国革命における「階級」	106
「文革」／ポスト「文革」をどうみるか	111
第5章 ナショナリズムと「党」	115
君主から「党」へ	115
中国における「党」の始まり	119
超級政党の出現	123

教育者としての「党」	125
国家にとっての「党」の位置	128

第6章 ナショナリズムと「帝国」 132

統治様式としての「帝国」	132
清朝と現代中国	135
二つの中国イメージ	139
他の旧帝国との比較——インドを例として	143
文字と官僚制	148

第3部 指導者の思想にみる中国ナショナリズム

第7章 孫文 155

広東の歴史的磁場から	155
『三民主義』その一、「民族主義」について	157
『三民主義』その二、「民権主義」について	161
『三民主義』その三、「民生主義」について	167
日本とのかかわり	171

第8章 毛沢東 174

またなぜ毛沢東なのか？	174
若き毛沢東の経験	176
毛沢東と内戦、および祖国防衛戦争	180
解放後の国家建設	184
毛沢東にとっての文革／ポスト文革	187
毛沢東の理想と現代中国	191

第9章 鄧小平 193

実務者の風貌	193
文革期の鄧小平、およびその遺産	195

第二次天安門事件（六・四事件）	199
南巡講話とポスト鄧小平体制	203
鄧小平の遺したもの	206

終章 課題としての中国ナショナリズム、 「民主」および「人権」について	209
--	-----

参考文献	215
年表 日本・中国（大陸）・台湾の近現代史	218